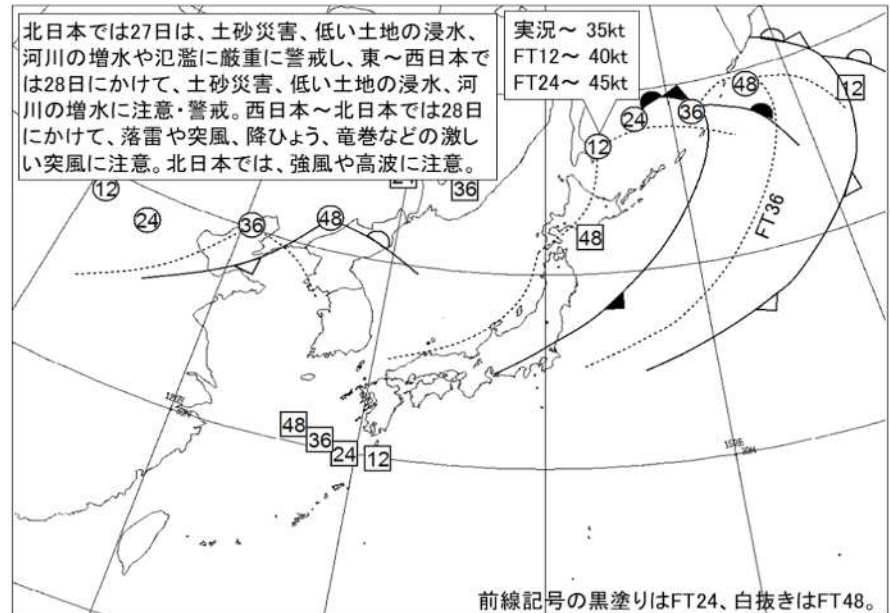


## 1. 実況上の着目点

① 沿海州から日本海の 500hPa 5700～5760m付近には -9℃以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。対応する前線を伴った低気圧が日本海北部にあって東北東進。低気圧や前線に向かって、下層暖湿気（26日21時の高層観測では 850hPa 相当温位 稚内で348K、松江で353Kなど、広い範囲で345K以上を観測）が流入しており、西日本～北日本の広い範囲で、対流雲が発達し、非常に激しい雨を解析、活発に発達を解析。



主要じょう乱解説図

② 日本の南には高気圧があつてゆっくり西へ移動。高気圧の周りを回る下層暖湿気が南西諸島付近に流れ込んでおり、対流雲が発達し、激しい雨を解析している。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のトラフが28日にかけて北日本を通過、1項①の低気圧は発達しながらオホーツク海を東北東進し、28日には千島近海に進む。低気圧からのびる寒冷前線が日本海から本州付近を南下する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、落雷や突風、降ひょう、竜巻などの激しい突風、強風、高波に注意。

② 1項②の高気圧は、次第に東シナ海に中心を移す。29日にかけて 500hPa 5880m以上の帯状の高気圧が日本付近を覆う。高気圧の影響で、西～東日本を中心に29日にかけて、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また西日本～東日本では、2項①の下層暖湿気や日中の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。中層の風が弱い対流雲が停滞しやすいことに留意。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒、落雷、突風、降ひょう、竜巻などの激しい突風に注意。

③ 南西諸島では、2項②の高気圧縁辺を回る下層暖湿気や上層寒冷低気圧の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では28日にかけて、落雷、突風、短時間強雨に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。不安定性降水については、昨日までの実況も参考とする。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(06時からの24時間)：東北・関東甲信・東海・九州北部100mm。② 波浪(明日まで)：北海道5m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

**5. 全般気象情報発表の有無** 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。